

# 区内三署合同で J:COM 港・新宿 『つながるトーク』に出演 リモート広報を実施しました。

11月9日（月）、新宿区内の三消防署（牛込・四谷・新宿消防署）は、署員が「ZOOM」により合同で地域情報番組にリモート出演し、火災・救急・防災のそれぞれに関し広報を行いました。お伝えした内容は、以下のとおりです。ぜひご覧ください。



【MC】 さあ、ここからは『つながるトーク』

地域の皆さんとリモートでどンドン、つながっちゃおうというコーナーです！

今日は新宿区内3消防署のみなさんに「秋の火災予防運動」についてと、コロナ禍で覚えておきたい救急・防災についてお話を伺います。

今日から火災予防運動なんですよ？

【牛込消防署員】

はい。今日から15日まで、「秋の火災予防運動」です。

今年は「住宅火災での悲惨な死者をなくそう」がテーマです。これから本格的な冬を迎え、暖房器具などを使う機会も増えてきます。

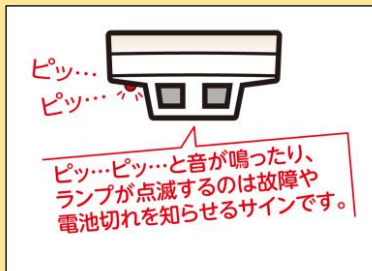


【MC】 住宅火災をなくすために、重要な対策を教えてください。

【牛込】 住宅用火災警報器の設置です。平成22年から、新築の住宅だけでなく、既存の住宅でも設置が義務となりました。機種にもよりますが、交換目安は、おおむね10年とされています。

【MC】 正常に作動するかどうかの確認方法を教えてください。

【牛込】 作動確認は、本体の点検ボタンを押すか、ひも付きのものは、ひもを引くことで行うことができます。音が鳴らない場合は、電池切れか機器の故障が考えられます。



また、住宅用火災警報器にホコリ等の汚れがつくと、火災を感知しなくなる危険性があります。汚れは乾いた布でふき取りましょう。

【MC】新型コロナの影響で、救命救急のやり方も変わってきていると聞いていますが、その点はいかがですか？

#### 【四谷消防署員】

はい。現在、消防署では、心肺蘇生が必要な場面に遭遇した場合には、

- ・実施する本人がマスクを着用する
- ・傷病者の口と鼻にハンカチやタオルなどがあればかぶせるようにする
- ・呼吸の確認や反応の確認を行う際にも、傷病者の顔と自分の顔があまり近づきすぎないようにするなどの対応をとるように、お伝えしています。



また、濃厚接触を避けるため人工呼吸はせず、心臓マッサージだけ続けるようにもお伝えしています。

各消防署でも、新型コロナウイルス感染防止に配慮した救命講習を行っています。ホームページでご確認の上、参加をご検討いただければと思います。

【MC】「おうち時間」も増えていますが、家の対策も重要ですね？

#### 【新宿消防署員】

近年発生した大きな地震について東京消防庁が調査した結果、負傷者の約3割から5割の方が家具類の転倒・落下・移動により「けが」をしていることが分かっています。

【MC】対策を教えてください。

【新宿】ズバリ「家具類の転倒・移動・落下防止対策」略して「家具転対策（かぐてんたいさく）」が有効です。家具や家電製品のレイアウトを変更するだけでも、「家具転対策」になります。



最も効果的な対策は、家具類にL型金具を取り付けることですが、壁に穴が開けられない、開けるのに抵抗があるという場合は、ポール式とストッパー式の器具を組み合わせるとL型金具と同等の効果を得られます。食器棚などのガラス扉付きの家具は、転倒防止対策だけでなく、ガラス飛散防止フィルムを貼るとさらに効果的です。

「家具転対策」の実施方法をまとめた『家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック』を東京消防庁のホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

【MC】みなさん今日はありがとうございました。以上、つながるトークのコーナーでした。